折々の便り

ふるさと愛南町を遠く離れて生活をされている方に「ふるさとへの想い」をご投稿いただき、新たな交流のきっかけにつながればと「折々の便り」というコーナーを設けています。
今回は、御荘平山の小野山かをりさん(広報編集委員)からご紹介のあった緑出身の谷口礼奈さん(東京都在住)からご投稿をいただきました。谷口さんはソプラノ歌手としてご活躍され、6月21日に御荘文化センターで開催される「～愛で紡ぐチャリティーコンサート～」にも出演されます。(詳しくはP26をご参照ください)

感謝を込めて・・・

私は愛南町 緑で生まれ育ちました。『夢』を追いかけ、高校は松山の高校に進学し、大学は東京の音楽大学へ進学しました。大学を卒業しても、地元には帰らず、大好きな歌をずっと続けています。『続けています』というと、私だけが頑張っている様に聞こえますが、私がこうやって歌を続けられるのは、両親をはじめ地元の方々の協力や励ましがあるからなのです。

大学を卒業すると、多くの人は就職をするでしょう。しかし私は、オペラを専門に勉強したいと思い、3年間研修所で学びました。短期ではありますが、イタリアにも行き、先生の家でお手伝いさんをしながら歌を勉強しました。イタリアの先生の家は、ボローニャの山奥にあり、自給自足の生活をしているので、朝早く起きて、鶏に餌をあげたり、ヤギを山の上まで連れて行ったり、畑を耕したりと、はっきり言って愛南町よりはるかに田舎です。でも、そんな田舎でもイタリアならオペラ歌手が職業として成り立つのです。イタリアでそんな生活をしている間、真っ青に透き通る空や土の匂いを感じ、愛南町を思い出していました。

こんなに時間やお金を使っても、歌い手が花開くのは30代から。東京でも歌の仕事はなく、色んなアルバイトを掛け持つ毎日。私は何をしに東京まで来たのだろう・・・正直心が折れそうでした。そんなとき、母が「2ケ月ほど帰ってきてゆっくりしたら？車の免許でも取りに行かんけん？」と言ってくれました。きっと実家に戻ったら、温かく迎えてくれる人がたくさんいる!!でも私は戻りませんでした。それに甘えて又、厳しい現実の待つ東京に戻れるか不安だったのです。でもそのとき「私には帰る場所がちゃんとある」と感じたのです。それから私は、「ありがとう」という言葉を大切にするようにしました。そうすると、自然に出会いが増え、お仕事の話も舞い込んでくるようになりました。

今では、一緒に活動する演奏仲間も増え、これまで「私に歌わせてください」とお願いしていたものが、「うちで歌ってよ」と言って頂けるようになりました。こうしてお仕事を頂けるようになった今、役立っているのはアルバイトで得た経験です。人とのつながりや、接し方、全てが今に繋がっているのだと思います。まだまだスタートラインに立ったばかりで、ここからが本当に頑張らなければいけないところですが、私の一番辛いときを支えて下さった皆様に、感謝を込めてコンサートをさせて頂くことになりました。

私が歌を志す事になったきっかけは？その素敵なエピソードは6月21日、御荘文化センターにてお話します。夢を持って生きること、それは大変なことです。でも夢は、自分を成長させてくれます。私に夢を与えてくれた愛南町に、感謝を込めて・・・